

414
A 3900



先程 石川半右衛門
之遺稿を以て 地下に於て 石炭其外 隆揚し
修成を遂る 得る相外 他人の手に 譲る事
留至 確然 禮を以て 良令に 之を益 命と爲
す 然るに 俟て 右に 記す 其の 詳は 之に 詳

拜借地之儀 存毛 年再 願也

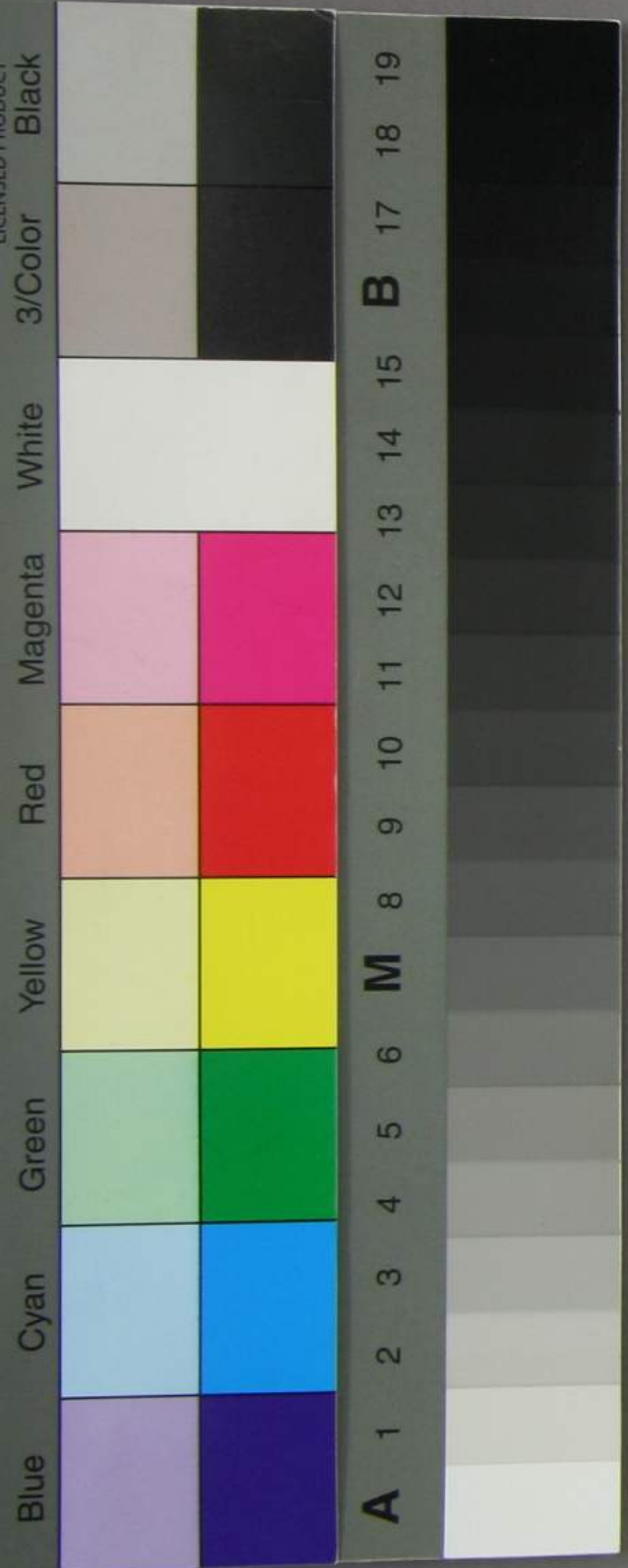
石川半右衛門

給木保吉持

之 臨座
之 印 在 持

天正十一年四月
大隈侯爵寄

七



毎月三丁有るに利息を以て取立て其の四は多き并
修庫ホシノ費ヲ引去殘金ハ覺レ運上ニ其後を
永世不易ノ山國ニ登ル一ノ官費ノ多クは
只之高倉ノ規制を完後果ノ酒智を去り各回
ニ並立シ高利者ニ及ぶ所在ハ累年若新仕
在車ニ官ノ所率地ニ地ニ進利ヲ通致作件
ト取付金ノ租仕を依テ別減仕法爲ル所
此所車再款以己上

午 七月十九日

高橋屋
七の右

石川中右衛門
鈴木保三郎

神楽川線
所役所

仕法書

伊勢山下海面

一切土肥三石五斗

口代令打七石五斗

一借庫五斗七石五斗

口代令打八石七斗五斗

令令以打石四斗五斗

師法

但 土 令 石 五 斗

但 土 令 石 五 斗

入 費

全一のあやう

壬午年

合令於三万のあやう

女と通仕法より一は卯高洋出多敷介し以年と心元實
し法遊とのをも建白を向海面に是と越を女以存孤
の資源もれり心止

壬午年

壬午年

信 庫 三

但令三族

了法元三
終一三信三
山河平三